

取材先	木暮実千代の会、金子みすゞ・雅輔の会、林伊佐緒偲ぶ会		
企画名備考	『詩と歌と朗読で蘇る下関の詩人と歌手と女優たち』 ～金子みすゞ 木暮実千代 林伊佐緒～		
取材日	2021年3月14日(日)天候[晴れ] [14:00~16:30]	取材地	下関市民会館

レポート

下関ゆかりの童謡詩人の金子みすゞ、歌手で作曲家の林伊佐緒、そして女優の木暮実千代の3人をそれぞれ顕彰する3団体が、合同で一つのことを企画する初めての試み『詩と歌と朗読で蘇る下関の詩人と歌手と女優たち』が開催されました。下関ゆかりの3人の先人を偲ぶ集いとあって、開演前から長蛇の列ができました。

金子みすゞを偲ぶステージでは、下関少年少女合唱隊が「金子みすゞを歌う」と題して、「星とたんぽぽ」「私と小鳥と鈴と」など6曲を、ビー玉のような透明感のある澄んだ声で歌いました。

次のステージは、林伊佐緒のご長男である林眞佐男さんを迎え、「林伊佐緒を語る」のトークショーが行われました。林伊佐緒が亡くなる3カ月前の映像や蓄音機を使ったレコード鑑賞もあり、歌手としての林伊佐緒と父親としての林伊佐緒のそれぞれのエピソードを披露してくださいました。

続いてのステージでは、木暮実千代を偲び「朗読劇『毎日が本番』」が演じられました。昭和54年12月に帰郷した木暮実千代と下関警察署唐戸派出所の警察官との交流を描いた朗読劇でした。大女優でありながら気さくな木暮実千代の人柄を懐かしむとともに、3カ月間の集中練習に取り組んだ出演者のパワーを感じました。

最後のステージは、シンガーソングライターの「ちひろ」さんのステージでした。「金子みすゞを唄う」というテーマで「大漁」「明るい方へ」など4曲を熱唱され、大きな拍手が会場に響きました。

コロナ禍の中で準備そして運営にご苦労された3団体の皆さんの熱意が、約180人の参加者に伝わったイベントになりました。

